



# 岐大通 2013

2013 J.League Division2

第1節 V・ファーレン長崎 戦

6/8(土) 19:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C岐阜大好き通信(岐大通)

6/8号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : V・ファーレン長崎 2012 JFL 20勝 7分 5敗 勝ち点 67 :優勝

「ヴィ・ファーレン」と読む。サッカー強豪校として知られる国見高校のOBチーム「国見FC」と島原地区で活動していた「有明SC」が統合して発足。「有明SC」として長崎県リーグを制し、FC琉球とともに2005年に九州リーグへ。2006年度は『全国社会人』で優勝し、『地域決勝』では下馬評も高かったものの、決勝ラウンド最終節でFC岐阜に1-2で敗れJFL昇格ならず。2年後の同大会で町田ゼルビア、ホンダロックとともにJFL昇格。JFL参戦4年の昨季に優勝し、今季よりJ2。(吉田鑄造)

## 2013J2 順位表 第1節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	G大阪	36p	+19	34	15	A
2	神戸	36p	+14	30	16	A
3	長崎	32p	+6	21	15	
4	京都	28p	+9	27	18	H
5	栃木	28p	+5	20	15	A
6	千葉	27p	+9	26	17	H
7	岡山	27p	+6	22	16	H
8	東京V	26p	+7	20	13	A
9	福岡	26p	+2	18	16	A
10	山形	25p	+9	31	22	H
11	松本	23p	+2	17	15	A
12	水戸	23p	+1	21	20	A
13	札幌	23p	-1	17	18	
14	徳島	22p	-6	21	27	H
15	熊本	21p	-2	21	23	H
16	富山	19p	-9	17	26	H
17	鳥取	19p	-12	12	24	
18	愛媛	18p	-3	17	20	A
19	横浜FC	16p	-6	14	20	H
20	北九州	14p	-12	14	26	
21	群馬	11p	-16	11	27	H
22	岐阜	8p	-22	7	29	---

## 次回 HomeGame

第2節 ギラヴァンツ北九州戦

6/29(土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

6月の初戦・ホーム岡山戦をドローで終えたFC岐阜。上位(岡山は現在7位)相手に何とか勝ち点1を獲れたと考えれば評価できるかもしれないが、またもホームで勝てなかったし、またも無得点だったと考えると、厳しい評価をせざるを得ない。そして何より、(何度も書いているのだが)今シーズンが既に3ヶ月経過しているにも関わらず、ホーム戦で未勝利。FC岐阜サポーターは、ホーム長良川での勝利に心から飢えているのだ。

さて、今節の対戦相手は、V・ファーレン長崎。今季J初参入ながらも、現在は3位とJ1プレーオフ圏内につけているチームだ。J昇格と同時に、昨季まで熊本で監督を務めた“アジアの大砲”高木琢也を監督に迎え入れ、その戦術を理解した選手がチームとして上手く融合している。J初参入なのに勝利を重ねて、チームに大きな自信と勢いが出ていることも強みだ。チーム得点王は、共に5得点を挙げている#15FW水永翔馬と#18MF佐藤洸一。水永は前節も後半ロスタイムに決勝弾ヘッドを叩き込んでいる要注意選手。そして佐藤は(説明するまでもないだろうが)、2008年に特別指定選手としてFC岐阜のユニフォームに袖を通して5年間、昨年まで通算39得点を挙げた選手だ。今年から長崎に移籍し、既にチームの主力として活躍していることに、複雑な思いを抱く岐阜サポも多きことだろう。しかし、だからこそ負ける訳にはいかない。岐阜の選手たちも闘志を燃やしているはずだ。特に#1野垣内は、佐藤とは四日市大学から昨年まで、長年チームメイトだった仲だ。2人の激しいマッチアップに注目したい。

また、長崎とは「Jリーグでは」初対戦となるが、実際には(特に古くからのサポにとっては)そうではない。FC岐阜が東海1部Lに所属していた2006年、JFL昇格を賭けた全国地域リーグ決勝大会の決勝ラウンドで、3試合総当たりの最後に岐阜と長崎は対戦している。ここで2-1と勝利して、FC岐阜はホンダロックSCとの入れ替え戦に進むことができ(そしてJFLに昇格し)、長崎は再び地域リーグに突き落とされたという過去の因縁がある。そして、先述した水永は、2006年当時はホンダロックSCに所属して#10を背負い、FC岐阜に敗れて九州リーグへ降格しているのだ。古くからの長崎サポ(あるいは古くからのクラブ関係者も)、そして水永は、当時の悔しさを決して忘れてはいないだろう。新旧さまざまな因縁が絡み合う一戦。どちらの選手も、そしてサポーターも「負けたくない」「勝ちたい」という気持ちを普段よりも更に激しくして戦うことだろう。でも、今の岐阜に必要なのは、個人の技術やチームの戦術という前に、そういう勝利への貪欲さ、死にもものぐるいで戦う執念ではないだろうか。僕らサポーターも、そうやって戦う彼らの気持ちを(暴力的でなく)押し上げ続ける声援を最後まで送ろうじゃないか。厳しい戦いになることが予想されるが、だからこそ、ホーム初勝利は格別の歓喜となるはずだ。(ささたく)

## 岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23  
tel:058-273-8998

「いらっしやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)



## ALADDIN

何も無い店だけど・・・  
心の花が咲く・・・  
何も無い店だけど・・・  
心癒される・・・  
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

## 【第1節】岐阜0-0岡山

現状はこれが精一杯なのだろうか。あるところまではボールを運べてもフィニッシュまでには至らない。シュート2本というスタッツがそれを如実に表している。

さて岡山戦のメンバー、出場停止の森安に代わっての野垣内のポランチ起用には少々驚いた。だが、最終ラインの前でフタをするという任務においては、忠実にこなしていたのではないかと思う。森安が戻っても次節も彼でいいのではないのかという感じさえた。あとは後半途中出場のレモスの速さは武器になり得るのではないかという可能性を感じさせた。あくまでもまだ可能性の段階ではあるのだが、3バックにシステムを変更して、行徳さんはトップに長いボールを当ててというサッカーをやりたいんだろが、それには上背のある電柱系のFWが不可欠。現状のメンバーならファビオなんだろが、新井やレモスに交代の序列の後塵を拝しているところを見ると、開幕直後のいかにも太目残り状態は脱しつつあるとはいえベンチの信頼度はまだまだだといったところだろう。ただファビオの覚醒をいつまでも待ってられない状態なのも確かだ。

今日は長崎戦。岡山戦とHome連戦が続くこの2試合で、最低でも勝ち点4は取らないと今後が非常に苦しくなると考えていた。それで岡山戦はドローで勝ち点1。となると、長崎戦は絶対勝利が至上命題になる。どんな内容でも構わない。必ず勝利を掴み取ろう。(岐阜の誇り)

とにかく、勝ちさえすればいい。このクラブの試合を頻繁に観るようになってから約8年。サッカーを楽しむという気持ちはどこへやら。ひたすらFC岐阜の勝利を願って応援する日々。どんな内容でもいい。それが相手のオウンゴールでも、ありもしないファウルでのPKでも、勝ってくれたらそれでいい。そんなスタンスでスタジアムに通う自分がいる。それはたぶん、昨年の残留争いはもちろん、地域決勝や昇格を賭けた試合の体験から来ているんだと思う。しかしその反面、派手に打ち合いを演じ、3-4や4-5で負けても「悔しい、勝ちたかった!」と言いつつ、それを試合後の酒の肴にするのもありだな、と考える自分もいたりするワケだ。もちろん、攻守に圧倒して複数得点を挙げての勝利なら言うことはないのだが.....。そんな自分にとっての岡山戦。正直、終了のホイッスルが鳴った後、その場で座り込んでしまっただけの選手達にかけられる言葉が見つからなかった。言葉を探す気力さえなかった。前半のポストに当たってはじかれたシュート。あれが決まっていたら、そのまま岡山に持って行かれた試合だったな、と。どうも、長良川へ来たチームはパフォーマンスが落ちるらしい。なぜだか、岡山も後半失速してくれて助かった。もっと言うなら、向こうの1番がベンチにも入ってなくてありがたかった。彼なら一人で決めきってしまうんだろ。そんなことを考える自分に失笑を禁じ得ない情けなさ。試合を通じてシュートが2本。枠内を捉えたモノは皆無。選手ががんばっているのはわかっている。だが、その結果が水戸戦や福岡戦を上回るものとは思えない。いや、前2試合と違って「勝ち点1」を手中にしたのだから、結果としては上回っているのか。それでも、負けた2試合の方が「勝てそうな気がした」。どうして、カウンターがシュートまで持ち込めないのだろう? 優位になりそうな場面、決定機になりそうな手前でのイージーなミス。こういうのは監督の指導の範疇を外れているよなあ。もう少しのところだと思ふ。やはり、結果が出せていないことの焦りからそうなってしまうんだろか?

それでも、この試合で初めて中盤の底、いわゆるポランチのポジションに就いた野垣内だが、無難にその任務を果たしたと思う。スタメンが発表になっても「秀人が一列上がって、野垣内がストッパー」と思っていたんでハラハラしながら見てたけど(笑)。それでも、アノ攻撃参加を目の当たりにすると「やっぱり秀人をポランチに上げた方が攻撃に厚みが増すんじゃないかな?」と思えるんだけど、い

かがなもんか? 行徳さんの選択肢には入っていないのかな? 試合後に「無失点に抑えること」を最優先にするような監督コメントを読んだ。確かに無失点に抑えれば負けることはないが、だからといって勝てる保証はない。この試合が終わって今季あと25試合。全試合を無失点に抑えれば少なくとも勝ち点25を得られるが、それでは昨季の残留ラインに届かない。サッカーは得点の多い方が勝つゲーム。そして、勝ち点の多いチームから残留していく規定。25引き分けより10勝15敗の方が勝ち点が多くなる事実。やっぱり、他のどのチームよりも走らないと勝てないよ。守備を固めるのは構わないが、どこかでリスク覚悟で勝負しないとな。援軍の来ない籠城戦の結果は歴史が示している。守備を固めているチームにとっての援軍は得点。籠城を支えているのは「ガマンして失点を防いでいれば、必ずゴールを決めてくれる」という希望なんじゃないかな? そのゴールが決まらなければ、いずれ守備も気力も破綻する。う~ん、結果が出てないだけにどうしようもなく混乱して、とりとめのないことばかり書いてしまう。戦っている選手達には厳しい注文ばかりで申し訳ないが、やはりこれを打開するのはピッチに立つ選手達以外にいない。長崎戦も精一杯応援します。どうか、勝利を勝ち取ってください。(ぐん、)

## 【ユース】残念な結果に.....

我がFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は6月1日(土)のG1リーグ第3節帝京大可児B戦がありましたので行ってきました。帝京可児はAチームは東海プリンスリーグ、BチームはG1リーグ、CチームはG2リーグで戦っています。さぞかし部員数も多いんでしょうね。試合は12時半にキックオフ。帝京可児は攻撃陣がDFの裏へ飛び出す意識が素晴らしくそれを複数の選手が繰り返しチャレンジしていきます。対するFC岐阜ユースもその帝京可児の動きを絶妙のラインコントロールでことごとくオフサイドにし、ボールを奪うと相手ゴールに向かっていく、と言うプレーを繰り返してました。しかし次第に岐阜サイドでのプレーが多くなり、FC岐阜ユースの数少ない軽率なプレーを見逃さず帝京可児がシュートまで持ち込む機会が増えていきます。そして前半終了直前にキーパーがボールにつられて少しゴールを離れた時に帝京可児の選手が冷静にフワリとしたボールを蹴りこんで先制。FC岐阜ユース0対1帝京可児で試合を折り返します。後半は次第にFC岐阜ユースの選手の動きが鈍くなり、相対的に帝京可児の選手の運動量が目立つようになります。思うようにラインコントロールが出来なくなるとセルフジャッジも増えていき、後半30分過ぎの5分弱の間に3点続けて取られた時には完全に集中力も切れていたように見えました。FC岐阜ユースはPKで一点を返すのが精一杯で、結局FC岐阜ユース1対5帝京可児と大敗でした。うーむ、対戦相手がG1リーグの中でも特に強豪チームばかりと当たっている為もあるかもしれませんが、中々G1リーグで結果が出ませんね。個々のプレーではけっして見劣りしている訳じゃなく途中までは互角以上の戦いが出来ているのにそれが続かない。前週の名古屋ユースとの試合ではかなり良い試合が出来ていたと聞いてそれなりに期待して観戦に行った事もあり、この日の試合は残念でした。次の試合は6月22日(土)にG1リーグ第5節大垣西高校との対戦が有ります。気持ちを切り替えてG1リーグでの初勝利を目指せ! FORZA! FC岐阜ユース!! (シュナ)

 Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honp-woodream.com/>